

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・3年ぶりに行事や催事などへの需要が多くみられる。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・前年と比較して輸送量が大幅に増加している。今後についても期待が持てる。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の解除以降、徐々に来街者、来客数が増えている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークに遠出しなかった人が多く、街中は比較的多くの客でにぎわった。ただし、客の購買意欲は低く、天候が崩れたせいもあって、予想ほど売上が伸びなかった。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの第6波の沈静化に伴って売上也回復傾向にある。ただ、まだ本来の状況にはなく、そこまで戻るには時間が掛かりそうだ。
	○	百貨店（営業販促担当）	単価の動き	・衣料品、服飾雑貨などに動きが出てきた。単品ではなくセットアップでの購入が増えていることで客単価も上向いている。
	○	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数の動きをみると、2月が前年比89%、3月が前年比92%、4月が前年比93%、5月が26日時点で前年比92%となっており、余り変わりなく推移している。一方で、買上客数は2月が前年比96%、3月が前年比97%、4月が前年比109%、5月が26日時点で前年比112%と徐々に回復しつつある。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスへの理解が深まっていること、感染対策としての規制が緩和されつつあることから、景気はやや良くなっている。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・前年はまん延防止等重点措置や緊急事態宣言があった月であり、それと比較すると衣料品や化粧品、トラベル用品などの動きが顕著となっている。食品はまとめ買いが減ったことで客単価が低下しているが、来客数が増えていることで売上は伸びている。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク期間を中心に観光客や帰省客による需要が増加しており、活発な商戦となった。
	○	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・観光客の数はそれほど変わらないが、蓄電池、送電線、風車などの工事関連の動きが活発化していることがプラスとなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・人の動きが出始めており、前年並みの水準まで売上が回復している。
	○	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客の買物の様子をみると、欲しくて購入するというよりも活動するために買うという傾向が強くみられる。周りが動き始めていることで、売上也徐々に改善している。
	○	自動車備品販売店（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染対策の緩和により人流が増加している。客と談笑しながら旅行の計画などを聞く機会も増えている。自社には直接関係ないが、経済的に良い方向に進んでいることがうかがえる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中は思ったほど来客数が増えなかったが、新型コロナウイルス発生前の6～7割の水準まで回復している。ただ、昼は良いが、夜が芳しくない。SNSにおいてレストラン料理の画像が増えていることから、集客増への期待も膨らんでいるが、所得の高そうな客の動きは低調である。スタッフ人員は不足しているが、旅館やホテルにおいて宿泊人数などを制限して自粛営業している状況を見ると人員を増やしていく面がある。
○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりしているなか、感染防止に注意しつつ、行動制限が徐々に緩和されていることから、景気はやや良くなっている。	

○	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前から桜が開花したこともあって人出が増加している。新型コロナウイルス新規感染者数は高止まりしているものの、これまでのような移動規制もなく、週末、祝日には待ち時間が出るような状況にある。
○	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・行動制限が緩和されたことで航空機利用者が増加傾向にある。ただ、新型コロナウイルス発生前の水準に届かない状況が続いている。コロナ禍のなか、旅行需要が蓄積されているはずだが、再三、感染拡大が繰り返されていることから警戒感も根強い。
○	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・今までが悪かった分、ようやく動きが出てきた。屋外でのマスク着用方針の見直しなど、政府の指針に伴って雰囲気が変わりつつある。
○	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用や人流抑制もないことから、客の旅行ムードが高まっている。これまで2年間旅行を我慢してきた客層が動き始めている。
○	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・旅行の間合せ数が増加している。ただ、予約に結び付かないケースも散見される。旅行したいという熱量は感じるものの、もう少し様子見するという客層もいまだ多い。予約数は4月から横ばいでの推移となっている。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・5月のタクシー1台当たりの売上は新型コロナウイルス発生前の2019年とほぼ同じ水準にまで回復し、前年比は大幅なプラスとなった。ただ、この2年間で高齢化とコロナ禍の影響で乗務員が30%減り、タクシーの稼働が低下しており、会社の売上は新型コロナウイルス発生前と比べると30%減少している。
○	観光名所(従業員)	来客数の動き	・3か月前は利用者が数百人単位であったが、現在は千人単位まで回復している。ただ、新型コロナウイルス発生前の水準と比べればまだまだである。
○	美容室(経営者)	来客数の動き	・道民割での宿泊旅行が増えていること、各種サークルの活動が再開されていることなどから、以前よりも人の動きが活性化している。それに伴って、客の来店頻度も短くなっており、来客数及び売上が増加している。
○	住宅販売会社(経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスが収束し、観光客や飲食店などの客が徐々に増えていることから雰囲気が良くなっている。ただ、資材高、金利高などで住宅業界の業績は頭打ちになっている。
□	商店街(代表者)	来客数の動き	・様々な規制も解除され、経済の回復に向けた動きが様々な業種で始めているなか、当地域においても車両の交通量が増加している。ただ、有料駐車場の利用状況や人流は、依然として昼夜間共に増加していない。当地域での勤務者からも、旅行にも出掛けない、来街もしないという客が多いという情報を得ている。景気は悪い状態のまま推移している。
□	百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は来客数が大幅に増加したが、その後は新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりしていることも影響し、横ばいでの推移となっている。
□	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・小売業界としてはさほど変化がみられない。売場や客の動きからもそのように見える。ただ、ウクライナ情勢の影響で物価の上昇が見込まれるため、今後は不安定な状況になるのではないかと懸念している。
□	家電量販店(店員)	来客数の動き	・5月前半は客足が鈍かったものの、後半は新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴って、少しずつ客足が戻っている。一方、海外のロックダウンの影響で部品不足が生じていることで家電もあらゆる分野で商材の動きが鈍くなっており、販売に時間が掛かるようになっている。
□	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・販売量が増減なく推移しており、低レベルで安定している状況が続いている。

□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・前月に引き続き上海のロックダウンの影響によるメーカーの生産遅れがみられる。予定どおりに納車できないため、売上が立たない状況にある。また、納期が遅くなっていることで客の購買意欲も損なわれている。
□	スナック (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、マスクに対する世の中の反応もそれほどうさくなくなってきたが、客の来店状況は非常に悪い。これからどのような状態に向かっていくのかさっぱり分からない。
□	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・グリーンシーズンに入り、本来であれば本州からの客が増えてくる時期だが、冬季シーズンと同様に予約が伸びてこない。現状、東北地域とのブロック割はほとんど効果がなく、道民割も需要が一巡したことで人が動かない苦しい状況となっている。早期にGo To Travelキャンペーンを実施してもらわないと、夏の旅行シーズンの予約開始には間に合わない。人流抑制3年目を迎えているが、2020年秋以降、観光産業への経済対策が何1つなされていないことに憤りを感じる。限界に近い。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関連での予約キャンセルは減少したものの、全体的な来客数は変わっておらず、変化がみられない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前と比べて景気は変わらない。まん延防止等重点措置が解除された後も客の動きは鈍く、来客数が余りみられない状況が続いている。これからも同じような状況がしばらく続くとみられる。
□	通信会社 (企画担当)	競争相手の様子	・競合他社が月額無料をうたったサービスを終了するとの報道発表があった後、想定以上に自社への乗換えが発生したものの、その数も次第に落ち着くとともに、別の競合への乗換えが徐々に増えている。現状は3か月前とほぼ同水準となっていることから、景気は変わらない。
□	美容室 (経営者)	お客様の様子	・当地の新型コロナウイルスの感染状況は依然として高い水準で推移しているが、この3か月、客がそれほど委縮した様子もなく来店している。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに來訪する客について、契約率の高い状態が続いている。
▲	商店街 (代表者)	お客様の様子	・客の反応をみても、景気は決して良い方向に進んでいない。むしろ、段々と悪い方向へ進んでいる。
▲	スーパー (企画担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が大きく好転しているわけではないが、日常生活が取り戻されつつあり、行楽なども回復している。そのため、食品スーパーへの来客数にはマイナスの影響が出ている。さらに、物価上昇の影響で客の買上点数が伸び悩んでいることもマイナスである。
▲	スーパー (企画担当)	来客数の動き	・来客数の前年比が3か月前よりも低下している。客単価は上昇しているが、商材の値上がりによって単価が上がっていることが要因であり、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー (従業員)	単価の動き	・食品スーパーにおいては商材の値上がりが続いているため、客単価の上昇と買上点数の減少が顕著となっている。今後こうした動きは継続するとみられる。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・海外のロックダウンの影響で車が入ってこなくなっているため、売上を立てるのが厳しくなっており、3か月前と比べると景気は余り良くない。販売台数が伸びないというのが一番大きな問題となっている。
▲	その他専門店 [医薬品] (経営者)	販売量の動き	・過去2年と比較しても明らかに景気が悪い。これまでは新型コロナウイルスへの警戒から健康管理に対する客の緊張感が感じられたが、そうした緊張感が徐々に薄れている。
▲	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、ゴールデンウィーク期間中の帰省や旅行が増えたこともあり、Web注文がかなり落ち込んだ。繁忙期となる母の日も、今年はゴールデンウィークと重なることで落ち込みが予想されていたが、予想以上であった。

	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、昼間の人流が増え、タクシー利用も増えたが、夜間の出は全く回復していない。まん延防止等重点措置期間中のライフスタイルが定着しつつあることがうかがえる。
	▲	美容室（経営者）	それ以外	・ありとあらゆる物が値上がりしていることで、消費することへの抵抗感が大きくなっている。
	×	商店街（代表者）	販売量の動き	・資材や原料の値上げと前年の農産物不作の影響がダブルパンチで襲っている。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比366.4%、前々年比1281%と増加しているが、新型コロナウイルス発生前の2019年との比較では43.2%にとどまっている。入出は増加しているが、外国人観光客が皆無なことから、売上は新型コロナウイルス発生前の半分以下となっている。一刻も早い外国人観光客の受入再開を望んでいる。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・半導体不足や海外の新型コロナウイルス感染拡大に伴う部品供給停止の影響で、メーカーにおいて度重なる工場休止が行われるなど、新車の供給計画が次々と崩れている。増販施策も取りやめとなったほか、新車販売の減少に伴って中古車販売にも商材不足という影響が生じている。非常に厳しい状態が続いている。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	*	*	*
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・本州向け生乳の輸送はまずまずで推移している。飲料関連、農産製品にも動きが出ている。一般雑貨の物流量も増えており、一般消費行動が旺盛になってくる兆しと捉えている。
	○	通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・通信料及びITサービス料金は長らく低廉化傾向が続いていたが、明らかな下げ止まり感が出てきている。受注件数や案件数が増加傾向にあることもプラスである。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・まん延防止等重点措置の解除に加えて、5月はゴールデンウィークがあったこともあり、人の動きが活発化し、個人消費は持ち直しの動きがみられる。ただ、物価上昇により節約志向が高まっている。こうしたことから、道内景気は力強さに欠けるものの、コロナ禍の影響が大きかった3か月前と比べてやや良くなっている。
	○	司法書士	取引先の様子	・小型建売住宅を扱う取引先は、季節需要も影響し、取引量が増えている。一方、注文住宅を扱う建築会社では、坪当たりの単価が上がっていることで厳しい状況にある。コロナ禍やウクライナ情勢に伴う資材不足の影響などもあって、資材をいつ調達するかによって業績が大きく変わってくる不安定さもみられるが、平均的にみれば景気はやや上向いている。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・5月の売上も3か月前とほぼ変わらない状況にあることから、景気は変わらない。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・公共土木工事は新年度受注分の着工期を迎えており、順調な状況に変わりない。まん延防止等重点措置の解除後は民間建築の引き合いも増えており、技術職員全員の現場配置が完了するなど、順調な状況にある。
	□	輸送業（支店長）	取引先の様子	・取引先の様子から大きな変化はみられない。
	□	司法書士	取引先の様子	・まん延防止等重点措置が解除され、ゴールデンウィーク期間中の外出が増えたが、その後も新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大がみられないことから、街中には何となく安心感が広まっている。ただ、これまでの自粛モードが一夜にして変わることもないため、景気回復はまだまだ程遠いとみられる。
	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・4月に続き5月も前年並みの売上となっている。都心部の再開発を中心に民間設備工事の需要は引き続きみられるものの、公共工事は微増での推移となっている。
□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が予測よりも若干増えているが、安心できる状態ではなく、まだ注意が必要な状況にある。	

	▲	家具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ウクライナ情勢、円安の影響で景気はやや悪くなっている。
	▲	建設業（従業員）	取引先の様子	・金属の価格上昇に加えて、原油高の影響、職人不足による労務単価の上昇などが影響し、建設費の上昇が問題となっている。今までは福利厚生面の影響で年間に1割程度の単価上昇であったものが、今では10割程度の上昇となることもある。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が増加傾向にある。販売の求人数は現状維持だが、営業の求人数が増えており、売上拡大に向けて人材確保を急いでいるようにみえる。また、コロナ禍が落ち着きをみせていることで、飲食店などのサービス業界の求人も増えている。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ほぼ全ての業界で前年と比べて求人件数が伸びている。飲食店やホテルなど、新型コロナウイルスの影響を受けてきた業界も徐々に増加している。求職者の動きが若干鈍く、思ったような採用状況とはなっていないようだが、採用活動に明るい兆しが出ている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年と比べて上向きとなっている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における4月の有効求人倍率は0.89倍であり、3か月前と比べると0.03ポイント上回っている。
	○	学校 [大学]（就職担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスで苦しんでいた業種にも光が差し込んでおり、新型コロナウイルス発生前ほどではないが、採用活動が活発化している。旅行業など、新卒採用にまだまだ慎重な業種もあるが、平均的にどの業種も採用意欲が高くなっている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・求人数は前年とほぼ同じである。当地では新型コロナウイルス新規感染者数がいまだに多いことから、住民の意識に不安が残っており、回復が遅れている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・まん延防止等重点措置など、行政による制限もないため、経済活動の動きが活発になっている。ただ、原油高や資材価格高騰などの影響もあって、経済が好転している印象まではない。やや足踏み状態での推移となっている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地の基幹産業である建設業、医療介護が引き続き堅調に推移している。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・4月の新規求職者数が前年から5.5%増加している。新規求人数も前年から4.4%増加している。懸念材料はあるものの、業況が堅調な企業を中心に求人が増えている。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—